選評

八波則吉

黙殺

子供らしいものではあるが作者の「思想」の具體化と見て、一讀の價値はある。訪問された友人が一向役立つてゐない立田山麓の餘景はよい。

吹雪の夜

ロシヤのどん底生活を想はせる陰氣なものだ。方言が多く多過ぎてうるさく、間には意味の通しない個處さへある。しかし此の作に何となく讀者は引ぎずられて、終りまで讀まずにゐられない一種の凄い「力」がある。筆の力か、想の力か、兎に角老手に近い。

其の日の道眞

強い意志が欲しい〳〵といひながら、頗る強い意志の持主が描かれてゐる。細君の事などは有つた事か無かつた事かそれを遣唐使廢止の主因に取扱つた所が、大膽ではあるが新し味である。蒸暑い天候の描寫が主人公の煩悶と相應してゐる。

三等車

小說化した記事文。粗放、冗漫、疵は多いが罪はない。

二人の私

世と妥協しようとする心と、世に背いても飽くまで自己に忠實に生きようとする心との對話。いやに理窟ぽいものだが、只岩窟仙人の點出に依つて、いくらか抽象論にうるほひが持たせてある。

復讐

とても實演は出來ないにしても、全篇緊張した好個の讀み物である。落選したのは惜しい氣がする。

親友

心は天香さんの感話に感じながら、行爲は心を裏切つた青年の苦衷を叙したもの。簡にして要を得てゐる。

以上を合格と見たので、寸評を試みた次第。妄言多謝

（十月十六日）